

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 1 月 22 日 (2009.1.22)

【公表番号】特表 2008-525580 (P2008-525580A)

【公表日】平成 20 年 7 月 17 日 (2008.7.17)

【年通号数】公開・登録公報 2008-028

【出願番号】特願 2007-548251 (P2007-548251)

【国際特許分類】

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

C 0 9 D 17/00 (2006.01)

B 0 1 F 17/16 (2006.01)

B 0 1 F 17/42 (2006.01)

B 0 1 F 17/52 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 B 67/20 L

C 0 9 B 67/20 F

C 0 9 D 17/00

B 0 1 F 17/16

B 0 1 F 17/42

B 0 1 F 17/52

【手続補正書】

【提出日】平成 20 年 11 月 25 日 (2008.11.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (1) :

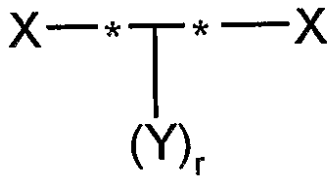
【化 1】

$$T - V - (A)_m - U - Z - W_x$$

式 (1)

または式 (4)

【化 3】



式(4)

の分散剤であって、
ここで、

X - * - * - X は、ポリビニルアミン、ポリアリルアミンもしくはポリ(C₂ - 4 - アルキレンイミン)を表し；

Y は、鎖 T - V - (A)_m - U を表し、該鎖は同じであっても異なってもよく、該鎖はアミドおよび／もしくは塩結合を通して結合され；

r は、2 ～ 2000 であり；

T は、重合停止基であり；

V は、直接結合もしくは 2 価の連結基であり；

A は、1 つ以上の異なるヒドロキシカルボン酸もしくはそれらのラク톤の残基であり

；

U は、直接結合もしくは 2 価の連結基であり；

Z は、ポリアミンもしくはポリイミンの残基であり；

W は、酸化物もしくは尿素の残基であり；

m は、2 ～ 2000 であり；そして

x は、1 から、基 T - V - (A)_m - U - を有しない、Z において使用可能なアミノ基および／もしくはイミノ基の最大数までである、

分散剤。

【請求項 2】

T がカルボン酸 R - COOH の残基であり、ここで、R は必要に応じて置換された C₁ - 50 - ヒドロカルビルである、請求項 1 に記載の分散剤。

【請求項 3】

R が、必要に応じて置換された、直鎖状でも分枝状でもよいアルキルである、請求項 2 に記載の分散剤。

【請求項 4】

R が 1 つ以上のエーテル基を含む、請求項 2 に記載の分散剤。

【請求項 5】

A がヒドロキシ - C₂ - 20 - アルケニレンカルボン酸もしくはヒドロキシ - C₁ - 20 - アルキレンカルボン酸またはそれらのラク톤の残基である、請求項 1 に記載の分散剤。

【請求項 6】

A が 12 - ヒドロキシステアリン酸もしくはリシノール酸の残基である、請求項 5 に記載の分散剤。

【請求項 7】

前記ラクトンが - カプロラクトンである、請求項 5 に記載の分散剤。

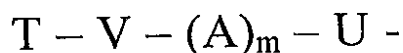
【請求項 8】

m が 20 以下である、請求項 1 に記載の分散剤。

【請求項 9】

請求項 1 に記載の分散剤であって、該分散剤は、式(3)：

【化 2】



式 (3)

の鎖を少なくとも 2 つ有する、ポリビニルアミン、ポリアリルアミンもしくはポリ (C₂ -
- 4 - アルキレンイミン) を含み、
ここで、T、V、A、U および m は請求項 1 で定義した通りである、
分散剤。

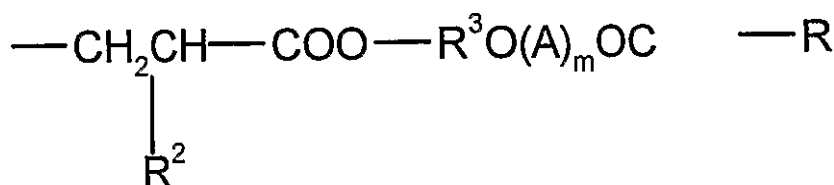
【請求項 1 0】

X - * - * - X と Y との重量比が 2 0 : 1 ~ 2 : 1 である、請求項 1 の式 (4) に記載
の分散剤。

【請求項 1 1】

請求項 1 0 に記載の分散剤であって、ここで、Y は式 (5) :

【化 4】



式 (5)

の鎖残基を表し、
ここで、

R² は、水素もしくは C₁ - 4 - アルキルであり；そして

R³ は、1 0 個までの炭素原子を含む脂肪族もしくは芳香族の残基であり、該脂肪族も
しくは芳香族の残基はプロピレンオキシドおよびノもしくはエチレンオキシドから誘導さ
れ得るポリエーテル残基を必要に応じて含む、
分散剤。

【請求項 1 2】

Q が尿素の残基である式 1 の分散剤を作製するためのプロセスであって、該プロセスは
、基 T - V - (A)_m - U - を有しない、Z におけるイミノ基もしくはアミノ基と尿素と
を 1 0 0 ~ 1 5 0 の温度で反応させる工程を包含する、プロセス。

【請求項 1 3】

粒子状固体および請求項 1 に記載の分散剤を含む、組成物。

【請求項 1 4】

有機液体をさらに含む、請求項 1 3 に記載の組成物。

【請求項 1 5】

粒子状固体、有機液体、フィルム形成結合剤樹脂および請求項 1 に記載の分散剤を含む
、ミルベース、塗料もしくはインク。